

第5節 平成30年度 小串構内(山口大学医学部構内遺跡)の調査

1. 総合研究棟(医学系)新営工事(機械設備工事)に伴う立会調査



図 68 調査区位置図



写真 242 調査区東壁土層断面 (西から)
東壁

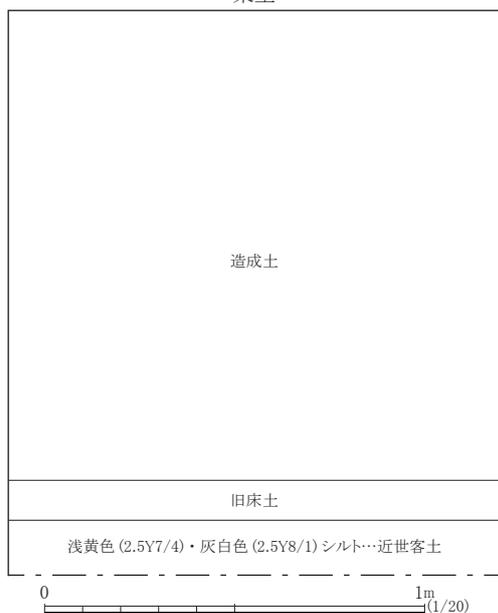


図 69 土層断面柱状図

調査地区 小串構内総合研究棟A北西空地

調査面積 6㎡

調査期間 平成30年6月12日

調査担当 横山成己

調査結果

平成28年度末に、小串構内南東部域に位置する総合研究棟(現名称:総合研究棟B)の南隣に、新たに総合研究棟(現名称:総合研究棟A)を新営する計画が提出された。当該地においては、平成14年度の総合研究棟B新営時に試掘調査が実施されており、縄文土器や土師器、須恵器などが確認されているが、量的には希薄^{註1}だったという。既往の調査成果により、小羽山丘陵に近い構内北東部の自然堆積層に、密に遺物が包含されることが明らかとなっていることから、新営建物の北西部で行われる機会設備工事時に立会調査を実施することが平成28年度第6回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成29年3月24日(金)開催)にて提案され、承認された(図68)。

大規模建物新営のため、工事は長期間に及び、機会設備工事が開始されたのは平成30年を迎えてからのことであった。機会設備柵設置箇所において立会調査を実施したが、現地表下125cmまでの造成土、下位に層厚10cmの旧床土、層厚15cm以上の灰白色(2.5Y8/1)シルト(近世客土)で掘削が止まっていることを確認した(図69、写真242)。

【註】

1) 当該年度年報未刊。

2. 基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事に伴う立会調査

調査地区 小串構内新病棟北東・南東側空地

調査面積 75 m²

調査期間 平成30年9月5日、10月25日、2月22日

調査担当 横山成己 水久保祥子

調査結果

当工事は平成26年度に開始されており、新営建物に対しては当該年度中に予備発掘調査を実施している。平成30年度は長期に及ぶ工事の最終年度であり、機械設備工事に対して立会調査を実施した(図70)。調査を行ったのは、建物北東隣接地2箇所(A・B調査区)と建物南東隣接地1箇所(C調査区)である。A調査区は2.4m、B調査区は3.7mの掘削が行われ、近世客土下の自然堆積層を確認した(図71、写真243)。C調査区は2.8mの掘削が行われたが、矢板により土層断面は観察できず、底面の貝混じりの海成砂層のみ確認した。

【註】

- 横山成己(2019)「基幹・環境整備及び診療棟・病棟新営工事に伴う予備発掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編)『山口大学埋蔵文化財資料館年報-平成26年度-』, 山口



図70 調査区位置図



写真243 B調査区北東壁土層断面(南西から)

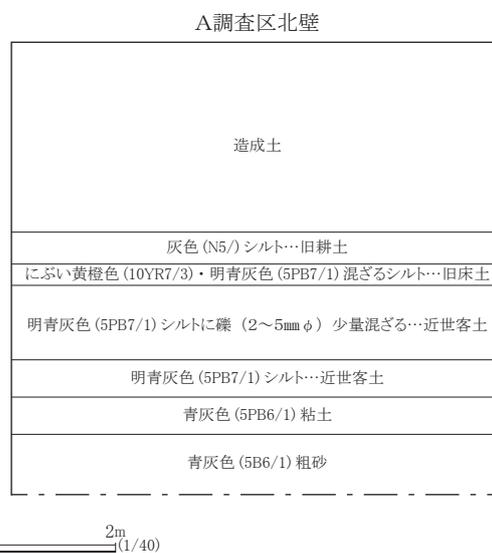
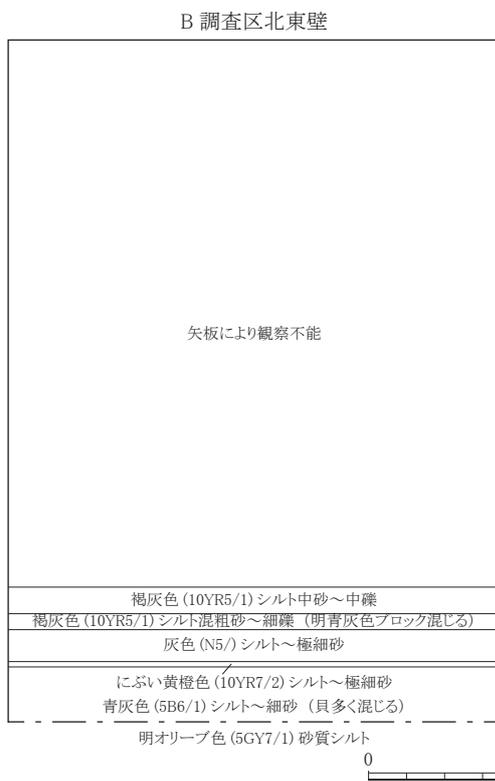


図71 土層断面柱状図

3. 基幹・環境整備(熱源設備更新)工事に伴う立会調査



図 72 調査区位置図

調査地区 小串構内特高受変電棟南側道路

調査面積 15m²

調査期間 平成30年10月27日

調査担当 横山成己

調査結果

小串構内にて熱源設備更新工事が計画された。一部で1.5mの深度で新規掘削が行われるとのことであり、平成29年度第7回埋蔵文化財資料館専門委員会(平成30年3月26日(月)開催)にて埋蔵文化財保護対応が諮られ、立会調査を実施することが承認された。

新規掘削工事は小串構内北西部、特高受変電棟南側道路部分で行われた(図72)。近隣地での既往の調査成果から、現地表下1.5mで近世客土に到達すると予測されたが、当該地はすでに大きく攪乱を受けているようで、造成土内に止まる結果となった(図73、写真244)。

【註】

- 1) 横山成己(2006)「医学部基幹整備(地下オイルタンク他)工事に伴う試掘調査」, 山口大学埋蔵文化財資料館(編), 『山口大学埋蔵文化財資料館年報—平成16年度—』, 山口



写真 244 北壁土層断面 (南から)



図 73 土層断面柱状図